

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連	
<input type="checkbox"/> 有	
<input checked="" type="checkbox"/> 無	

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	南部公民館の利用促進事業							
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	生涯学習課	係	生涯学習係	評価票作成者	生涯学習担当係長 奥村幸成
1-3 総合計画における施策の体系	節	教育文化 「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			基本施策	生涯学習の推進	コード	4 1 1
	項	生涯学習の推進			単位施策(中)	生涯学習の拠点整備	コード	4 1 1 1
		生涯学習の推進			単位施策(小)	南部公民館の利用促進	コード	4 1 1 1 3
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	生涯学習活動に関心とニーズを持つ市民	意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		市民のニーズに対応した生涯学習機会を提供することにより、南部公民館の利用促進を図る。			
1-5 事務事業の内容	多様化するニーズに対応した生涯学習機会を提供するため、平日の夜に講座を開講するなどして、南部公民館の利用促進していく。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	市民のニーズに対応した講座を検討した。	市民が生涯学習講座に参加できる機会を増やし、公民館の利用を促進する。		市民意識調査で市民の学習意欲への高さがうかがえ、公民館講座を夜間に開催を希望する市民が増えている。	
	平成19年度					
	平成20年度					
	平成21年度					
	平成22年度					
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	南部公民館の利用件数(件)		1,080(件)	1,150(件)	2004年の利用件数が1,010件。公民館サークル、市外利用者等が活動の場として利用してもらえる件数を5年間で7ポイント程度高め、2015年までには合計14ポイント程度利用件数を高める目標を設定した。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(件)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	1,006									
	人件費 c(千円)	13,314									
	合計コスト d(b+c)(千円)	3,351									
	単位コスト d/a(千円)	16,665									
		1件当たり 17	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 直接事業費は、公民館の清掃・管理等委託料である。人件費は係担当の年度内の関わり(事務分担表と実績)から0.5人として18年度は算定した。(マニュアルによる人件費6,700円)

2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標対応実績(単位)	1,006(件)										
後期目標値に対する達成度(%)	87.4(%)										

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価	A										

4段階評価結果
 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準
 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	市民の参加意欲に主眼を置き、ニーズに対応した講座を検討	夜間に開催することにより、生涯学習への参加者が増加し、公民館の利用促進を図ることができる。	講座の開催内容によっては幅広い年代層が参加できた。
平成19年度			
平成20年度			
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果	結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。
平成19年度		
平成20年度		
平成21年度		
平成22年度		
平成23年度		
平成24年度		
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		